

# 風土記の丘の花だより<sup>212</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年11月18日)

先週、大駐車場のトイレの奥にホシアサガオがたくさん咲いていたので、今回それを紹介しようと思っていたのに、15日に見たら、なんと花が終わってしまい、種ばかりでした。残念！ それで、計画を練り直し、下の民家周辺でコンパクトに観察できる4種に変更しました。



今年は花数が少なかったウバユリですが、今、実ができています。一つは柳川家の南東隅、イヌビワの木の下です。それがこの写真です。あと一つはそこから東(左)に数メートルのところで見るすることができます。ユリは普通、球根を植え付けます。でも中には種で増えるものもあります。ウバユリがそれです。昨今ものすごい勢いで増えているタカサゴユリも種で増えます。種はとでも小さく、周りに薄い膜のような物がついています。それで風に乗って遠くまで移動できるのです。もうすぐその種が見られそうです。



山裾に背の高い細長い草が生えています。アブラスキです。写真では中央で噴水みたいに写っているのがそれです。アブラはもちろん油のことで、この草の穂を触るとぬるぬるしていることによります。たしかに油みたいで手に付くとしばらく残ります。イネ科の外来植物は多いですが、これは昔から日本に生えている在来植物です。名前にスキと付きますが、あまりスキには似ていませんね。イネ科の植物にはなんとかガヤ、なんとかシバなどが多く、この草のようになんとかスキという名前も多くあります。



谷山家の庭でヒイラギの花が少しだけ咲いています。毎年この季節になると開花を待ち焦がれる花です。華やかさはありませんが、清楚な慎ましやかな花はなぜか惹かれるものがあります。刺に気を付けながら、花を探して、すてきな写真を撮ってみてください。ここで余談です。ヒイラギの葉と言えばトゲトゲというイメージがありますが、木が成熟するとそれはなくなり、ツルンツルンの葉になります。人間、歳をとると丸くなるのと似ていますね。(笑)



同じく谷山家の庭のアオキに赤い実ができています。漢字で書くと「青木」です。昔は緑色を青と表現していましたから、枝まで緑色の常緑のこの木にはぴったりな名前ですね。以前はミズキ科されていましたが、今ではアオキ科だ、いやガリア科だと図鑑によってさまざまです。この木は雌雄異株で、実がなるのは言うまでもなく雌株です。雄株は、このあたりでは、庭の南東隅、柵みたいなものの左奥にあります。今回はすぐに4種類が観察できましたね。 松下